

ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

5

コクリーシヤヒ



世界文化社



世界文化大百科事典 《ジュピター》

5

セット商品につき分冊販売不可

発行所 株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表) 〒102

発行者 鈴木 勤
編集 株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印刷 株式会社東京印書館
製本 中央精版印刷株式会社
製函 文京紙器株式会社
用紙 神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表紙 ダイニック株式会社

凡 例

この《世界文化大百科事典 ジュピター》は、現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして、項目の解説は、その記述内容が的確・敏速に把握できるよう、つとめて簡明・平易なものとしたが、各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け、一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し、総括的な理解が得られるようにしてある。また、カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し、内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

- 1 各ページに収録されている項目を、そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目、奇数ページには最後の項目の、それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし、促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し、長音〈ー〉は除いた。

東 京→トウキヨ

ヨーロッパ→ヨロツパ

- 2 項目の見出しは、〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し 本見出し
げんじものがたり 【源氏物語】
エヌエイチケー 【NHK】
インキ 【ink】

- 1) 国語読みおよびそれに準ずるものは、現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし、現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては、〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず 【沼津】⇒ぬまづ

- 2) 外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し、〈ヴェ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヰ〉〈ヱ〉は用いない。

ベートーベン (ベートーヴェンとはしない)

ベネチア (ヴェネチアとはしない)

ただし、外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ 【羅紗】

らっぱ 【喇叭】

- 3) 地名で、日本の行政区画および外国の国名・地域名、山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは、検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか 【大阪(府)】

おおさか 【大阪(市)】

ミシシッピ(州)

ミシシッピ(川)

- 4) 中国・朝鮮の地名・人名は、原則として日本で慣用されている国語読みで示し、現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう 【河北省】 ホーベイ省

ふざん 【釜山】 プサン

もうたくとう 【毛沢東】 マオツォートン

ただし、国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用語のものはそれに従った。

シャンハイ 【上海】

ペキン 【北京】

メイランファン 【梅蘭芳】

- 5) 本見出しでは、かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し、外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ 【入れ墨】 刺青・文身とも書く。

ウイスキー 【whisky】

ただし、原語のつづりでイタリック体は、植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ 【Aloe】

項目の配列

- 1 かな見出しの五十音順に配列し、清音→濁音→半濁音の順とした。

しんくう 【真空】
しんぐう 【新宮(市)】
じんぐう 【神宮】

はい 【肺】
ばい 【蝨】
パイ 【pie】

- 2 促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう 【銃】
じゅう 【自由】

- 3 長音の〈ー〉は音順から除外したが、同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん 【阿片】
アーヘン [Aachen]

- 4 同音のものは次の順とした。

- a) 見よ項目→解説のある項目

あか 【赤】⇒色
あか 【垢】

- b) 普通名詞→固有名詞

じゅんし 【殉死】
じゅんし 【荀子】

- c) 固有名詞では地名→人名

- d) 町名などで同音の場合は北から南への順

- e) 人名などで同音の場合は生年の早い順

- 4 生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち、教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは、それになった。ただし、生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

- 5 年代は、原則として西暦で示した。ただし、国内に関する記述の場合は、その項目の初出の箇所に年号を併記した。

- 6 外国地名の表記は、原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

- 7 外国語・外来語の表記については、〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

- 1 日本の都道府県市町村の人口は、自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし、10,000以上の場合は100の位で、10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

- 2 都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業、鉱業・建設業・製造業などの第2次産業、商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は、総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

- 3 外国およびその地域・主要都市の人口は、主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが、他の資料によって補ったところも多い。

地 図

- 1 日本の都道府県と8地方、世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け、また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

- 2 地図の記号は一般の地図記号に準じているが、都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

- 3 都道府県と独立国の地図の地貌表現は、等高線段彩で示した。しかし、全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり、その数値は各図中の等高線上に記入してある。

- 4 地図中の地名の表記は、本文の地名表記の基準に従っ

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め、各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって、五十音順による項目配列の当該の位置には、その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇 宙

すべての天体とそれを含む全空間、いい
かえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

- 1 かなづかいは、歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き、すべて現代かなづかいを用いた。
- 2 送りがなは、原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。
- 3 漢字は、原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし、固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも使い、()の中にその読み方をひらがなで示した。

た。

符号・記号

解説文中に用いた、おもな符号・記号は次のとおりである。

⇒ 指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん 【関西弁】 ⇒ 方言

しょせき 【書籍】 ⇒ 図書

サイン ⇒ 正弦

ジンフイズ ⇒ カクテル

→ 解説文中または末尾につけて、参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は、従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの

あいいろ 【藍色】 ……(解説)……。→色

* 解説文中の用語の右肩につけて、その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん 【安山岩】 中性の火山岩^{*}。

いほうじん 【異邦人】 カミュ^{*}の小説。

【】〈〉 解説文中に中見出し・小見出しを施し、解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合

【名称・歴史】

【生活】

【衣食】

【住居】

【風俗習慣】

【音楽】

貨幣の場合

【種類】

【制度】

【歴史】〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は、正義と ……

戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり、 ……

《》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》

《カルメン》

() 語句の言い替え・補足説明や、年号の併記などを示す。

す。

病変米(黄変米)

燃料ガス(都市ガス)

慶長年間(1596~1614)

1872年(明治5)

() 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)

伊豆(いず)半島

香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では、次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし、必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリマイクロン	cal	カロリー
μ	マイクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm ²	平方センチメートル	W	ワット
m ²	平方メートル	kW	キロワット
km ²	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm ³	立方センチメートル	km/秒(分, 時)	速さ
m ³	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	%	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	°' "	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁 田中一光

特別大項目目次 第5巻

古代文明	38 (ページ)	東京大学教授	秀村欣二
国 家	46	東京学芸大学助教授	星野安三郎
米	94	暁星商業短期大学教授	守田志郎
コンピューター	144	早稲田大学教授	小原啓義
財 政	166	横浜国立大学教授	宇田川璋仁
サイバネチックス	177	早稲田大学助教授	内山明彦
裁 判	180	家庭裁判所判事	赤塔政夫
細 胞	184	日本女子大学教授	佐藤正一
産業革命	286	愛知県立大学助教授	板橋重夫
詩	326	東京大学教授	日高八郎
自 殺	384	早稲田大学教授	戸川行男
地 震	396	日本大学教授	堀 福太郎
実存主義	432	立教大学助教授	飯塚勝久
自 動 車	444	日本自動車研究所理事	成田武男
資本主義	484	慶応義塾大学教授	加藤 寛
市 民	496	創価大学教授	樺 俊雄
社会保障	516	早稲田大学名誉教授	末高 信
写 真	530	東京造形大学助教授	大辻清司
ジ ャ ズ	536	音楽評論家	浜野サトル



こくりついでんがくけんきゅうじょ

【国立遺伝学研究所】 静岡県三島市にある文部省直轄の研究所。1949年(昭和24)に設立され、現在、形質・細胞・生理・応用・生化学・変異・人類・微生物・集団・分子の10遺伝部門に分かれている。47名の研究員を擁し、近代的な設備を整え、遺伝学の研究では世界的水準にある。

こくりつえいせいしけんじょ 【国立衛生試験所】 ⇒衛生試験所

こくりつかがくはくぶつかん 【国立科学博物館】 自然科学・理工学に関するわが国唯一の国立の科学博物館で、東京都台東区上野公園内にある。動物・植物・地学・人類・理化学・工学に関する資料をテーマ別、系統分類別に展示して一般の観覧に供している。研究部があって資料の収集整理、日本列島の自然史科学的総合調査等をすすめており、わが国の自然史研究センターの役割も果している。1975年(昭和50)現在定員は館長以下162名で、約半数が研究者である。土地13,223m²、建物4むね延15,995m²、年間約80万人の入場者がある。なお、新宿区百人町に自然史の研究を主にする分館、港区白金台に自然保護研究・教育普及を行っている付属自然教育園がある。あらたに筑波研究学園都市に、実験植物園、理工館を主体とする研究施設を建設中である。

この博物館は、1872年(明治5)湯島聖堂において文部省博物館の名称で、わが国で初めて公開された施設が前身で、1877年上野公園旧四軒寺跡に教育博物館改称、学校教育を援助するための博物館として発足した。1889年高等師範学校付属の博物館として湯島聖堂内に移され、1914(大正3)年東京教育博物館とかわり文部省の管理となる。1921年東京博物館と改められ、この頃純粋な科学博物館としての機能をもった。関東大震災で全焼したので、1931年現在地に東京科学博物館として復興され、1949年国立科学博物館と改称された。〔椎名仙卓〕

こくりつかんセンター 【国立がんセンター】 東京都中央区築地(つきじ)に所在。1962年(昭和37)癌(がん)の基礎的研究、診断と治療の開発および専門医療技術者の養成、診断・治療技術の普及など、癌制圧を目的として開設された。運営部・病院・研究所の3部門からなる。1969年度における病院の診療の実態は、1日平均入院患者数406.1人、1日平均外来患者数480.2人、年間臨床検査件数625,014件、年間X線透視および撮影件数211,033件、年間放射線治療照射件数34,610件、年間手術件数2,321件となっている。これらの数字は開院当初の2

倍に達し、特にベータトロン・リニアアクセラレーターの設置により、臨床検査件数と放射線治療の照射件数が急増した。研究面では臨床および基礎研究の両面で成果をあげ、現在日本における癌の診療・研究に重要性を加えている。〔石田尚志〕

こくりつきょうぎじょう 【国立競技場】 東京にあるわが国最大の競技場で、国立競技場法に基づいて設置され、財団法人国立競技場によって管理される。施設には明治神宮外苑(がいえん)にある陸上競技場のほか、代々木の屋内総合体育館や戸田漕艇(そうてい)場などがある。中心となる陸上競技場は、1956年(昭和31)に14億5,000万円を投じて明治神宮外苑陸上競技場を改築したもので、1958年の第3回アジア競技大会の主競技場となった。その後、1964年のオリンピック東京大会の開催にあたってさらに10億円をかけて増築され、75,000人を収容するスタンドが設けられ、主競技場として開閉会式と陸上・サッカー・馬術などの競技が行なわれたが、そのすぐれた施設と運営は各国から絶賛された。オリンピック大会を機会に建設された屋内総合体育館は12,000人の観客収容力をもつ大プールと附属施設である球技場とからなり、つり屋根構造の特異



国立競技場 オリンピック東京大会の開(閉)会式場であった、神宮外苑の陸上競技場。上方に聖徳記念絵画館が見える



国立劇場 校倉造りを模した外装で、大小2劇場が並列している

な外観で知られるが、設計者丹下健三(はなせう)は国際オリンピック委員会(IOC)からオリンピック功労章を授与された。プールは、冬季にはスケートリンクとして活用されている。なお、これらの諸施設はオリンピック大会以後一般に開放され、トレーニングセンターが設けられたほか、水泳・バスケットその他の教室や少年スポーツ学校などが開かれ、スポーツの普及に活用されている。現在、年間の利用者は見学者を含めて500万人以上に及んでいる。〔伊東春雄〕

こくりつぎんこう 【国立銀行】 1872年(明治5)制定の国立銀行条例に基づき設立された銀行。アメリカの国法銀行(national bank)の制度にのっとったもので、国有ではない。国立銀行は銀行券の発行を許可されていたが、中央銀行による発券制度の整備が必要になったため、1879年第一百五十三国立銀行を最後に免許を停止した。その後、1882年には日本銀行が設立され、国立銀行の多くは1890年代末には普通銀行に転身した。〔速水保〕

こくりつげきじょう 【国立劇場】 国家がその国の演劇の保存と振興を目的として、財政的な援助を与えて設立する劇場。単に演劇を公開するだけでなく、付属機関として芸能関係の博物館、俳優の養成所、研究調査の機関を有し、理論と実践の両面にわたる文化活動を行なう。フランスのコメディ・フランセーズ、ソ連のモスクワ芸術座、イタリアのスカラ座などは著名である。日本の国立劇場は1966年(昭和41)開場された。特殊法人国立劇場が毎年度経常費の補助を得て経営にあたり、音楽・能楽・歌舞伎(かぶき)・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能などをおもな対象として、その公開、伝承者養成、調査研究、資料の収集・保存・展示などを行なっている。〔服部幸雄〕

こくりつこうえん 【国立公園】 ⇒公園

こくりつこうしゅうえいせいいん 【国立公衆衛生院】 厚生省の付属機関。1938年(昭和13)3月29日の公衆衛生院官制によって設立されたもので、①公衆衛生技術者の養成訓練、②公衆衛生に関する講習、③公衆衛生に関する学理応用の調査研究を業務としている。公衆衛生全般にまたがる学部と付属図書館をもち、学生は全国の行政部門、私企業の衛生担当の医師、保健婦などをはじめとする公衆衛生従事者である。少数ながらアジア諸国からの学生も受講している。〔金子義徳〕

こくりつこうじょう 【国立工場】 ⇒国立仕事場

こくりつこくごけんきゅうじょ 【国立国語研究所】 国語および国民の言語生活に関する科学的調査・研究を行ない、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くために、1948年(昭和23)に設立された研究機関。研究部は、①現代の言語生活および言語文化に関する調査・研究、②国語教育と新聞に

における言語、放送における言語など、同時に多人数が対象となる言語に関する調査・研究、③国語の歴史的発達に関する調査・研究、④言語問題、国語関係の資料および情報などに関する調査・研究の四つの部を設け、研究題目により他の研究所・団体との共同研究・委託研究を行ない、地方言語や国語教育に関する研究・調査のため、地方研究員や実験学校・協力学校の制度を設け、数々の研究報告・研究資料集のほか、毎年、年報の刊行、《国語年鑑》の編集、月刊雑誌《言語生活》(1951年4月創刊)を監修している。〔石黒 修〕

こくりつこっかいとしょかん 【国立国会図書館】 国立国会図書館法により設立された、わが国を代表する国立中央図書館。1948年(昭和23)旧赤坂離宮を使用して発足したが、1961年東京都千代田区永田(ながた)町に新館が完成、さらに1968年に増築を行ない、地上6階、地下1階、総建築面積69,837m²、職員845名、蔵書数286万冊を越えるわが国最大の図書館となった。同館は遠く1872年(明治5)4月、文部省が設立した書籍館(しょしょくかん)およびその後身である帝国図書館の資料を受け継ぎ、明治以前の古書のほか、明治以後の国内出版物の大部分が所蔵されている。同館は購入・寄贈のほか、納本制度による国内出版物の網羅(もうら)的収集、国内・国外諸機関との交換などにより世界的規模で資料を収集し、①国会、②行政・司法各部門、③国民(満20歳以上、ただし館長が特に認めた者には年齢制限をしない)に対する奉仕、④国際的な図書館協力を行なっている。なお、行政・司法各省庁図書館は、ここの支部図書館として、資料の相互貸借その他により、相互に有機的連携を保っている。〔北島武彦〕

こくりつしごとば 【国立仕事場】 1848年の二月革命後、フランスの臨時政府が社会主義者・労働者の要求に応じて設置した施設。国家ないしは労働者が管理する工場として構想が立てられたが、実際には工場ではなく、土木事業などによる失業救済事業にすぎなかった。そのため失業者の数と仕事の量に不均等が生じて混乱し、また税金として賃金を負担する市民や農民の不満が高まった。6月にはブルジョア共和派の支配する第二共和政府が廃止に踏み切ったため、六月事件の原因となった。〔大野慎一郎〕

こくりつせいようびじゅつかん 【国立西洋美術館】 東京都上野公園内にあり、1959年(昭和34)6月の開館。サンフランシスコ平和条約会議に際して行なわれた吉田(よした)茂首相とフランスのシュマン外相との会談が契機となり、1915年(大正4)から昭和初年にかけて松方幸次郎によって収集され、第2次世界大戦下に敵国財産としてフランス政府の管理下にあった旧松方コレクションが日本政府に返還されたことによ

る。建物の設計はル・コルビュジェ、1958年起工。以後、収蔵品の展覧のほか、特別展を開催して、西洋近代美術(絵画・彫刻)の積極的な紹介などによる活発な活動を行なっている。〔陰里鉄郎〕

こくりつよぼうえいせいけんきゅうじょ 【国立予防衛生研究所】 1947年に発足した厚生省の付属機関。国民の健康に関連する各種伝染病の調査、ワクチン・血清・抗生剤などの生物学的製剤の国家検定、消毒薬の検定、寄生虫やネズミ・こん虫の対策の研究、およびこれらに関連する医学分野の研究を行なっている。長崎と広島に支所をもち、原爆障害の調査を行なっている。

こくりゅうかい 【黒龍会】 1901年(明治34)玄洋社の流れをくむ右翼運動家内田良平(1874~1937)が主宰して創立した国家主義結社。会名を黒龍江(アムール川)にとり、大アジア主義を掲げて大陸進出を強硬に主張した。大陸浪人を主力に日露戦争時の密偵(みつてい)活動、日韓(にっかん)併合の裏面工作など、大陸侵略の尖兵(せんぺい)的役割を果たした。第2次世界大戦後解散。

こくりゅうこうしやう 【黒龍江省】 ヘイロンチャン省 中国東北部の省。面積71万km²、人口2,139万(1972年推)。省都はハルビン。3省轄市(ハルビン・チチハル・伊春(いしゅん))・6専区に分かれ、11市・64県・1自治県を統括する。北部に標高1,000mほどの小興安嶺(しょうこうあんれい)が連なり、その北麓(はくろく)にはアムール川が流れてソ連と境を接する。平地はおもに東・西部に開ける。冬季の寒さはきびしく、夏は短い。降雨は夏季に集中する。全人口の80%が少数民族で、満州族・朝鮮族・回族などが住む。農業はおもに中部のアムール川の支流松花江とその支流嫩江(ねんかう)流域でトウモロコシ・小麦・ダイズなどがつくられ、東部のアムール川・松花江・ウスリー川(アムール川支流)の合流点付近の湿地帯を呈する平野でダイズ・コウリヤン・アワなどが栽培されている。また、森林資源は特に著名で、小興安嶺と東部の完達山一帯から産出される木材は、中国全体の3分の1を占める生産量を有している。鉱山資源としては、鶴崗(かくかう)の石炭、アムール川沿岸の砂金が有名である。近代工業はハルビンを中心に行なわれ、食品・紡織を主とする軽工業のほか、金属・機械・化学などの重化学工業も行なわれる。チチハルには大規模な鉄道車両工場がある。伊春の製材、牡丹江(ぼたんかう)の製材・製紙・金属・化学工業も著名である。アムール川・松花江は河川交通が盛んであり、ハルビン・牡丹江は鉄道交通の要衝で多くの線を集め、省内外を連絡している。

1931年の満州事変後に成立した満州国の一部であり、本省は当時の黒河・滨江・三浜・龍江・松江の5省の領域を含む。中華人民共和国成立後は、多くの未開発地の大々的な開拓が進められている。〔木村辰男〕

こくりやうでん 【穀梁伝】 ⇒春秋左氏伝

こぐれりたろう 【木暮理太郎】 (1873~1944) 登山家。群馬県に生まれ、東京大学中退後、長く東京市史編纂(へんさん)に従い、1913年(大正2)日本山岳会にはいってその機関誌《山岳》を編集した。少年時代から登山に親しみ、日本の主要な山岳をことごとく登り、1935年(昭和10)第3代日本山岳会長になった。

こくれん 【国連】 ⇒国際連合

こくれんぐん 【国連軍】 国際連合*の軍事的強制措置に参加する軍隊のこと。国連軍と通称されるものとしては、本来国連憲章7章に規定された兵力と、国連の実践面で組織された軍隊とがある。基本的には、国連の平和維持方式の中核となる集団安全保障のための強制行動の任務をおびた軍隊と、国連の平和維持活動の任務で現地に派遣される新しい型の軍隊がある。国連憲章7章によれば、平和に対する脅威、平和の破壊または侵略行為のあった場合に、平和と安全の維持または回復のための軍事的強制措置に使用する軍隊について、43条から47条までに、陸・海・空の兵力の編成、指揮を規定している。これが憲章上の国連軍とよばれるものである。これは常備軍ではなく、そのつど各加盟国の軍隊によって構成される。ただし、国連軍の迅速で能率的な編成と使用が可能のように待機体制を予定し、兵力の提供などについて加盟国と安全保障理事会*との間で特別協定を締結するものとしていたが、東西対立のため実現せず、憲章上の国連軍についての規定は死文化している。これに代わって、1950年11月の第5回国連総会で〈平和のための統合決議〉が採択され、安全保障理事会または総会の勧告に応じて加盟国が自国家軍隊内に国連部隊として提供できる部隊を準備しておくことが勧告された。国連の実践面で現実には、1950年の朝鮮戦争*の際に安全保障理事会の勧告決議で派遣されたものがある。性格は、国連の強制行動のためのものではあったが、アメリカ軍中心の軍隊であり、本来の集団安全保障体制の発動形態からかなりかけ離れたものであった。それ以外の、スエズに派遣された国連緊急軍(UNEF, 1956)、コング派遣軍(ONUC, 1960)、キプロス平和維持軍(UNFICYP, 1964)は平和維持活動のためのもので、戦闘や衝突の防止、警戒を目的または任務として五大国を除いて編成され、指揮権が直接かつ実質的に国連に掌握される、などの点に特徴がある。⇒国際警察軍 〔広部和也〕

こくれんじどうきんきやうきん 【国連児童緊急基金】 ⇒ユニセフ

こくれんじどうけんりせんげん 【国連児童権利宣言】 1959年11月20日、国際連合総会において全会一致で採択された児童の権利に関する宣言。一般的な権利・自由な

どに關しては世界人権宣言が存するが、特に児童に対する宣言をしたものである。児童は身体的にも精神的にも未成熟であるので特別の保護を与える必要があることを明記し、両親・個人・諸組織・地方自治体・政府はすべてこの宣言に示されている権利・自由を認識して、立法的措置を含むあらゆる手段によって、これらを守るように要請されている。〔広部和也〕

こくれんしよくりょうのうぎょうきかん

【国連食糧農業機関】 United Nations Food and Agriculture Organization 略称FAO。1945年10月16日に成立した国際連合食糧農業機関憲章により設立された国連専門機関の一。各国民の栄養と生活水準の向上、食糧と農産物の生産および分配の能率改善、農民の生活条件の改善により世界経済の発展に寄与することを目的として、栄養・食糧・農業に関する情報の収集・分析、加盟国に対してこれらの問題について勧告・技術援助などの活動を行なっている。総会・理事会・事務局からなり、本部はローマにある。加盟国144(1978)。日本は1951年(昭和26)加盟。〔広部和也〕

こくれんちいきけいざいいんかい

【国連地域経済委員会】 United Nations Regional Economic Commissions 国際連合経済社会理事会の下部機構の一つで、地域的な経済問題について調査・研究を行ない、情報を収集し、その解決を図り、その地域の経済・社会水準の向上を目的としている。現在、アジア太平洋经济社会委員会(ESCAP, 1947年3月設置)、ヨーロッパ経済委員会(ECE, 1947年3月設置)、ラテンアメリカ経済委員会(ECLA, 1948年2月設置)、アフリカ経済委員会(ECA, 1958年4月設置)、西アジア経済委員会(ECWA, 1974年1月設置)の五つの委員会があり、その地域の加盟国と地域外でも特別の利害をもつ国々によって構成されている。→国際連合 〔深海博明〕

こくれんぼうえきかいはつかいぎ 【国連貿易開発会議】 United Nations Conference on Trade and Development 略称UNCTAD(アンクタド)。南北問題解決のため設置された国際連合総会の常設機関の一。1962年の第17回国連総会の決議により、1964年3～6月ジュネーブにおいて121か国が参加して第1回会議が開かれ、その後1964年12月、第19回国連総会の決議で総会の常設機関の一つとして発足、少なくとも3年に1回会議を開催することになっている。国連は1960年代を「開発の10年」と決議し、先進国・低開発国が協力して南北問題、南北の発展格差解消の問題に取り組もうとし、このため低開発国の経済発展を促進し、これを妨げないような国際経済環境(特に貿易と援助面を重視)をつくりだし、国際協力を組織化しようとした。第2回会議は1968年2～3月にインドのニューデリ



虎溪三笑 狩野山楽 東京国立博物館蔵

ーで132か国2,000名が参加して開催された。機構としては、貿易開発理事会(TDB)があり、同理事会の下に一次産品・製品・貿易外融資・海運の4委員会が設けられ、スイスのジュネーブに事務局がある。初代事務局長はブレヴィッシュ(アルゼンチン)。第1回会議では、いわゆる〈ブレヴィッシュ報告 新しい貿易政策を求めて〉を中心に、貿易原則、一次産品、製品・半製品、援助などをめぐって論議が行なわれ、低開発国側は一つのグループを形成して先進国に対抗し、合計59の勧告を採択したものの、その具体化と実施は進まず、低開発国側の不満が高まった。第2回会議では、低開発国側内部で発展段階差に基づく利害意見の対立がみられ、第1回会議で採択された勧告の実施を迫り、一般特惠制度の早期実施、一次産品に関する商品協定・研究の促進、援助を国民総生産(GNP)の1%とし、政府援助の比率の増大(80%)と援助条件の緩和を求めた決議などが採択された。国連は1970年代を「第2次国連開発の10年」として、積極的に南北問題に取り組んでいくこととなり、この会議の役割もますます増大するであろうが、その後これらの決議の具体化・実施は、南北の主張の対立によって、あまり進展していないのが実情である。〔深海博明〕

こくれんぼうえきかいはつりじかい

【国連貿易開発理事会】 United Nations Trade and Development Board 略称TDB。1964年に開催された第1回国連貿易開発会議(UNCTAD)で設置が決定された常設機関で、会議の中核的機関である国連貿易開発会議が開かれていない期間はそれに代わるべき役割を果たす。年2回開催され、国連経済社会理事会(ECOSOC)と協力

し、国連貿易開発会議の準備と処理にあたり、会議の勧告・決定などの実施状況を検討し、必要な措置をとる。現在55か国からなり、グループ1(AA)から22か国、グループ2(先進国)から18か国(日本を含む)、グループ3(ラテンアメリカ)から9か国、グループ4(共産圏)から6か国となっており、この理事会のもとに、一次産品・製品・貿易外融資・海運の4委員会があり、さらに小委員会・グループなどが置かれている。本部はジュネーブにあり、事務局長はガマニ・コリア(スリランカ)。〔深海博明〕

こくろう 【国労】 ⇒日本国有鉄道労働組合

こぐん 【語群】 ⇒語族

こけ 【苔】 ⇒コケ類

こけいさんしょう 【虎溪三笑】 東洋画の面題。恵遠(えん)法師・陶淵明(とうえんめい)・陸修静の3人が虎溪の石橋のかたわらで大笑している図。中国東晋(とうしん)時代に、恵遠法師は廬山(ろさん)にこもって念仏修行を積み、客を送っても虎溪の石橋より外に出ることがなかった。ところが、あるとき陶淵明と陸修静が訪れて〈道〉を語ったが、話に身がはいってしまい、見送りながらふと気づくと石橋を過ぎていたので、3人は手を打って笑った、という故事を描く。室町期以降に漢画家が好んで面題とした。周文・雪舟・文清・祥啓・狩野元信(かのうもとのぶ)・狩野山楽らの作品が知られている。〔中島純司〕

こけいひりょう 【固形肥料】 硫酸・過リン酸石灰・塩化カリなどの無機質肥料に泥炭(でいたん)を加えて、3mm以上の粒徑に成形した肥料。大形の粒のものを団子肥料ともいい水稲用に、中粒以下のものを主としてクワ用に用いている。肥料の流失が少ないため、肥効に持続性があり、追肥を行なわなくてもすむ。

こけいへんか 【語形変化】 語がその形の一部を変えること。次の三つの場合が考えられる。①活用による語尾変化(読ム→読マない)。②複合語(フネ→フナノリ、ヒト→コビト)や音便形(散りて→散って)などのように、発音上、語の形を変える場合。③奈良時代には〈サビシ〉といったのが、平安時代には〈サビシ〉と変わったように、歴史的に語の形が変わる場合。①・②を共時的(あるいは体系的)語形変化、③を通時的(あるいは歴史的)語形変化とよぶこともできる。

こけし 球形の頭をもち、円筒形の胴に手足のない木人形で、日本の郷土玩具(がく)の一つに数えられる。以前は東北地方6県に在住する木地師がろくろを使用して製作していたが、戦後は各地のひき物細工師によって観光みやげにつくられるようになり、全国の観光地・温泉地のみやげ品として売り出され大流行となった。現在は、古くから東北6県でつくられていたものは伝統こけしとよばれ、新しくつくられたものと区別されている。伝統こけしの材料には

コケシチ

〈みずき〉〈いたや〉などを使用、頭や顔の表情は製作地・作者によってそれぞれ違い、胴模様には、キクやウメなどの花模様、ろくろ模様などがあり、10系統に区別されて、古い形式を伝えている。〔牧野玩太郎〕

こけしちしゅう 【五家七宗】⇒禅宗

こけしのぶ 【苔忍】 シダ植物・コケシノブ科。山地帯ないし高山帯の、日陰で湿った岩や樹上にはえる、高さ2～5cmの常緑のシダで、細い根茎を伸ばして群生する。葉は暗緑色、2回羽状深裂する。胞子嚢(ほうし)は小裂片の先に着き、2枚の包膜に包まれる。

こげちや 【焦茶】 色名。物の焦げたときの色のような茶色。黒みをおびた茶色。この色名の範囲は非常に広く、標準の色相を決めるのはむずかしい。焦茶ほど黒くない茶色に、栗色(くりいろ)とココア色がある。栗色は栗皮色ともいわれ、〈源氏物語〉には落ち栗色とされている。また、焦茶のさらに赤みの色はチョコレート色とよばれる。なお、焦茶のいっそう暗い色が黒茶である。しかし、一般にはこれらの区別は明確ではなく、焦茶という名称で総称されている。日本工業規格(JIS)では、色相5.0YR、明度3.2、彩度2.0の色と規定されている。

こけつぼうし 【固結防止】 化学肥料の中には、高温多湿の条件下では吸湿して固結したり潮解するものがあり、ケイソウ土やタルクをまぶしたり界面活性剤を用いてこれを防止する。これを固結防止という。用いる資材を固結防止剤といい、少量で効果が大きい。

こけでら 【苔寺】⇒西芳寺

こけにん 【御家人】 鎌倉時代、将軍と主従関係を結んだ武士の自称。将軍の家人を尊称して御家人といった。法的には、根本私領を有し、その領有を将軍家下文(くだんぶん)によって安堵(あんど)され、御家人役を勤仕(きんし)する者をいう。したがって侍の身分でも御家人役勤仕の地をもたない者は非御家人といわれ、厳重に区別された。御家人は将軍から所領安堵・新恩地給与などの御恩を受けたのに対し、御家人役などは奉公の義務を負った。このような御家人を組織した御家人制度は、幕府の支配体制の根幹をなした。

江戸時代には、知行高一万石以下の将軍直属の家臣のうち、御目見(おめみえ)以上を旗本(はたもと)、以下を御家人といった。封禄(ほうろく)二百六十石が最高で最低は四両一人扶持(よし)である。微禄(みろく)のうえ江戸の都市生活を送っているのが多かった。

〔鹿野賀代子〕

こけむし 【苔虫】 触手動物の一綱。シロヒゲコケムシ・チゴケムシなどが含まれ、現生種約6,000。微小な個虫が多数集まって群体をつくる。群体の形状は扁平(へんぺい)・樹枝状・角状など多数で、いずれも水生であり、岩石・海藻(かいそう)や他動物上などに



コケムシ ミカドコケムシ。群体は岩・貝殻・海藻などに着生し、虫室は中央部ほど高い



コケモモ
(上)花
(下)果実

着生して生活する。各個虫はみずから分泌した石灰質・ゼリー状・角質の虫室に収まり、虫室前端的開口から口・総担(触手冠)などを出す。虫室の開口は前端に1個あるだけなので、消化管はV字形に曲がり、肛門(こうもん)が口とほとんど同じ高さにある。ただし口は触手冠の中央に位置するのに対し、肛門は触手冠の外側にある。口を背上方から不完全におおう口上突起という構造をもつ被喉(ひく)亜綱と、それをもたぬ裸喉亜綱に二分される。有性生殖の場合に、前者は直達型の発生をするが、後者はトロコフォア型の自由遊泳幼生を経て成体になる。無性生殖は出芽によるほか、被喉類では環境が悪化すると休芽(スタトブラスト)を生じ、親群体の死後も残って環境の好転あるいは水流によって他所に運ばれてのち出芽する。呼吸は体表で行なわれ、特別の循環系・内分泌系はない。裸喉類の場合は、自由遊泳型の幼生が岩石などに定着すると、順次各方向に出芽して群体を形成するが、個虫一匹の生命は非常に短く、群体の中心に向かうほど個虫が死滅して空室となった虫室が目立つようになる。

被喉類は淡水産で、地球上のほとんどあらゆる淡水に生活し、裸喉類は一部を除き海産で、水平分布は全海洋に及び、垂直分布は潮間帯から5,850mの深海に及んでい

る。水中に触手を伸ばし、触手にはえている繊毛で水流を起こして、触手冠の中央にある口へ微小生物を送り込む。食道にも繊毛があって、食物を腸に送り込む。周囲に少しでも異常を感じると、すぐに触手を虫室に引っ込めてしまう。大多数の個虫は自活能力のあるものであるが、一部の個虫は特殊な形態と機能を有しており、異形個虫とよばれる。異形個虫は、普通の個虫の虫室の外壁に付着しており、鳥の頭のような形をした鳥頭体と、むち状の振鞭体(しんべんたい)とがある。前者は、群体の外壁にとりつこうとする他の付着生物を1対のあごではさみつけ、その生物が死んで分解するまで離さない。振鞭体はむち状のもの(口蓋(くがい)の変化したもの)を振って、付着生物の付着を防いでいる。両者の働きで、苔虫の群体・外壁は他生物の付着を免れる。苔虫類はオルドビス紀末にはすでに現われており、ジュラ紀・白亜紀に大いに栄えた。

〔菅野 徹〕

こけもも 【苔桃】 双子葉植物・ツツジ科。北半球の寒帯に広く分布し、日本でも北海道から九州の高山帯に自生する常緑小低木。茎は細く、横ばい分枝し、地上茎は10～20cmで直立する。葉は互生して密につき、長さ2cmほどの長楕円(ちようだえん)形で厚い。初夏、枝端に総状花序に紅色をおびた白花をつける。花冠は鐘状で、先が4裂する。果実は球形で、晩秋紅熟し、甘酸味があり食用となる。果実は塩づけ・砂糖づけ・シロップ・ジャム・菓子の原料となる。

〔横井朝子〕

こげら 【小啄木鳥】 鳥類・キツツキ科。日本産キツツキ類中で最も小形で、およそスズメ大。全体にかっ色と白色のまだら状のじみな羽色で、雄の後頭部の左右に数本の赤色羽があるが、まったく目立たない。極東にのみ分布し、日本各地のおもに平地から低山帯の森林で繁殖する。木がきしむような〈ギュー〉というものと、セミ類の声のような〈ギュー、キィキィキィキィ〉という独特な鳴き声をする。➔キツツキ

こけらいた 【柿板】 屋根をふくために用いる薄い木の板。スギ・ヒバ・ヒノキなどからつくる。厚さは1.2mm以上、幅10cm内外、長さ24cm内外の寸法で、素姓のよい木材から手はぎ・機械はぎして加工する。厚手のものは耐久性においてマツ材よりもすぐれる。屋根ふき材料として、これがそのまま仕上げとなる場合(こけら板ふき)や、野地板の上にふいて粘土がわらなどの屋根下地とする場合がある。こばくぎを用いて留めつけ、俗称とんとんともいう。厚手のもの(5～7mm)はこ板ともいう。

〔難波蓮太郎〕

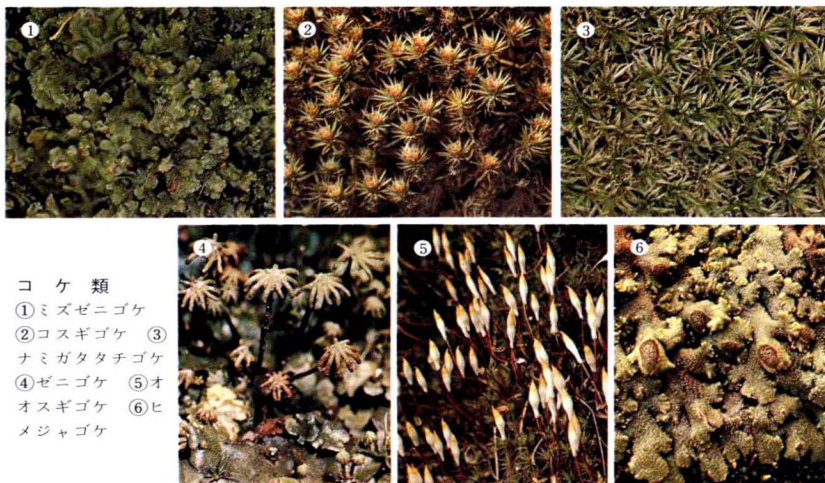
こけりんどろ 【苔龍胆】 双子葉植物・リンドウ科。日あたりのよい野原にはえる越年草。茎は根きわより多数出て、高さ2～8cm。葉は対生し、小さな卵形で基部で

癒合(ゆごう)し、短いさや状になる。春、枝の先に長さ1cmほどの鐘状で先が五裂した淡青色の花をつける。

こけるい 【苔類】 植物分類学上の一門で、蘚苔(せんたい)植物ともいう。緑色植物の一群で、系統上緑藻(りよくそう)類または車軸藻類とシダ植物の中間に位置する。植物本体はほとんど完全に陸上生活に適応しているが、有性生殖の際に精子が水中を泳いで卵に達し、このことは水中生活者である祖先の藻類の性質のなごりと考えられ、現生の緑藻類中ケートフォラ類がコケ類の祖先形に近いものとされている。この群は分枝糸状体であるが、平伏部と直立部の分化があり、また半陸生ないし陸生(スミレモ)のものがある。中でもサヤゲモは、受精直後ではあるが卵を中性の細胞群が包むこと、受精卵は有性世代上で直ちに減数分裂して8細胞の無性世代を生ずるなど、緑藻では特異な性質を示し、コケ植物の起源をこの群に推定する根拠となっている。しかし、造卵器、精子の形、原系体を生ずるなどの共通点から、車軸藻類との類縁も強いことは確かであろう。一方、シダ植物への関連は造卵器の完成、未完成ではあるが茎葉体への進化、らせん形の精子などにみられる。コケ植物の胞子は発芽すると原系体という平伏する分枝糸状体を生ずる。この一部から直立する芽が出て、コケの本体(配偶体)が成長する。受精卵は配偶体で発育し、胞子嚢(ほうしのう)をつくる。つまり複相の胞子体は胞子嚢と胞子嚢柄であり、配偶体上に寄生している。胞子は減数分裂を経てつくられる。有性世代が植物本体(大形のもの)であることはシダ植物の世代交代と逆の関係にある。体制は完全な柔組織による葉状体から茎と葉の分化にまで進むが、根は分化せず、仮根があるのみである。通道組織には初步的の分化があり、道束とよばれる。生態的には完全に陸生で、地上・岩上・樹皮上または生葉上に生じ、さらに二次的に水生化して水面に浮き、あるいは水中に沈生する。海産種はなく、熱帯から極地まで広く分布する。経済的価値のあるものはほとんどない。

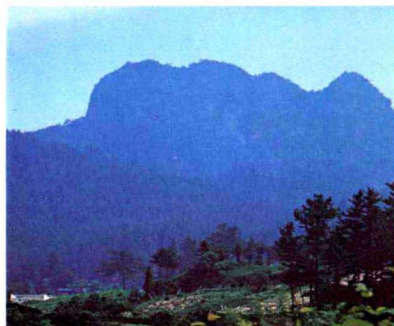
【分類】 ①苔類：葉状体から茎葉体まであり、より原始的な群。②蘚類：すべて茎葉体。なお新しい分類ではツノゴケ類・真正ゼニゴケ類・ウロコゴケ類(以上苔類より)、ミズゴケ類・クロゴケ類・スギゴケ類に六大別される。なお、通俗的にコケとよぶときには、陸上で各種の基物の表面に生ずる緑色ないし帯緑色の小形の植物を総称しており、コケ植物のほか、地衣類の全部と蘚藻(らんそう)類・緑藻類の一部が含まれている。

こけん 【沽券】 土地その他の売り渡し証文のこと。売券・沽却状・避状(きりじょう)などともいう。律令(りつりょう)時代、園地・宅地など私売する場合、坊令(平城京・平安京の



コケ類

- ①ミズゼニゴケ
- ②コスギゴケ
- ③ナミガタチゴケ
- ④ゼニゴケ
- ⑤オオスギゴケ
- ⑥ヒメジャゴケ



五 剣 山 山頂に奇峰を連ねる五剣山。南側の牟礼町付近からの眺望で、この左手は壇ノ浦の入り江をはさんで屋島へ続く

4 坊ごとにおかれた官人)・郷長(地方行政官)が現地役人として作製した提出書類に、官が許可の文言を記入して、買い主に交付したものをいった。平安中期以降は私券として売り主が作製し、買い主に渡す売り渡し証文となった。江戸時代には町・村役人および五人組の加判が必要となった。沽券が売価の意味に用いられ、さらに人の信用度を表わす語になって、〈沽券にかかわる〉という文句ができた。〔高崎徳次〕

こけん 【語源】 単語が、そのように成立した、もとの由来。比較的新しくできた語や外来語は、語源のわかることが多いが、古来の語には不明なものが多い。語源に対する興味は古今東西を通じ普遍的であって、まちがった語源解釈(民間語源・語源俗解とよぶ)から新しい語形を生むこともある(例：一所懸命→一生懸命)。科学的な語源研究のためには、同系統の諸言語との比較研究が不可欠であるが、日本語では確実に同じ系統として参考になる言語がないなど、西言語の場合に比べると著しく不利な条件がある。〔西尾寅弥〕

こけんうんどう 【護憲運動】 ⇒憲政擁護運動

こけんざん 【五剣山】 香川県高松市屋島の東方に、壇ノ浦を隔ててそびえる山で標高370m。山頂に比高約50mの五つの奇峰が突出するのでこの名がつけられたが、江戸時代に1峰が侵食によって崩壊し、現在は4峰が残る。中腹に四国巡礼の札所八栗(やくり)寺があるので八栗山ともいわれる。瀬戸内海国立公園の一部になっている。

こけんてい 【五賢帝】 古代ローマ最盛期の5人の皇帝。ネルバ・トラヤヌス・ハドリアヌス・アントニヌス・ピウス・マルクス・アウレリウスをさす。貴族中の有能者を養子とし、帝位を継がせたので名君が続き、治安の確保、文化興隆・版図拡大など〈ローマの平和〉が謳歌(おうか)された時代である。トラヤヌス帝の治世下に版図は最大となった。哲人皇帝としてその著《自省録》で知られるマルクス・アウレリウスの時代は、表面ははなやかであったが、他民族の侵入が強まり、国内混乱のきざしが明らかとなってきた。〔高山高雄〕

こけんゆう 【呉健雄】 ウーチエンジュン(1915～) アメリカの女性物理学者。中国生まれ。現在コロンビア大学教授。中国で大学を終え、科学院で研究後、1936年渡米。カリフォルニア大学でローレンスの指導下で原子核実験の研究に従事したが、1956年、李政道(りせいどう)と楊振寧(ようしんない)がパリティ非保存の可能性を論じてその検証の可能性を指摘したおり、その実験を遂行し、実証に成功した(1957)。科学アカデミー会員。

こご 【古語】 過去の時代(ふつう、江戸時代以前)に用いられたが、現代の中央語・共通語には、普通には用いられなくなった単語。古語は多くの場合、文献に残存し、それによって古語としての資格が明らかになる。ほかに、〈こそ〉〈かはづ〉などのように雅語・歌語として残存したり、〈おどろく(目をさます)〉〈うたてい〉のように方言に残ったりしている。また、〈なまめかし(上品

だ)のように意味・用法が変化して現代語に残っていることもある。〔西尾寅弥〕

ココア [cocoa] カカオの種子を原料とする嗜好(しこう)飲料。カカオの主要な品種にはクリオロ種とフォラステロ種があるが、前者のほうが風味が高い。製造法は、まずカカオ豆を焙(ばう)格(から)し、殻(から)を除き、果肉を加熱する。これをカカオペーストといい、さらに圧搾して脂肪(カカオバター)を除いたものを粉砕すれば粉末のココアができる。成分は脂肪20%、タンパク質20%、炭水化物35%を含み、栄養価も高く消化もよい。また茶やコーヒーと同じアルカロイド系刺激成分であるテオブロミンを約1.4%内外含む。飲むときはただ熱湯を注ぐだけでなく、3〜4分間煮沸するほうがかおりがよく出ておいしく飲める。なお、ココアにカカオバターその他を加えたものがチョコレートである。〔斎藤 進〕

ココアいろ 【ココア色】 色名。ココアのような色。赤みのある暗い茶色。チョコレート色よりもやや黄みが多く、明るくあざやかな色でもある。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ココア色〉は色相2.0YR、明度3.5、彩度4.0の色と規定されている。→栗色(くりいろ) →色

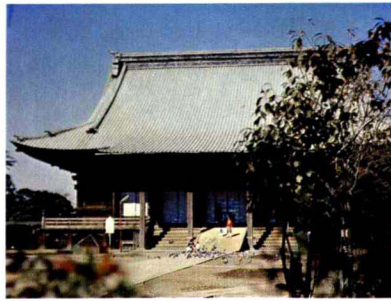
こごう 【小督】 邦楽曲名。《平家物語巻6》の〈小督〉に基づく。高倉天皇の寵愛(ちやうあい)を受けた小督局(こごうのつぼね)が、平清盛の迫害を恐れて身を潜めたのを、勅使が捜しに行き、箏(そう)の音によって秋の夜の嵯峨野(さがの)で見つけた。能では、4番目物で五流で行なわれている。山田流箏曲では《小督の曲》の名で知られ、19世紀初め山田検校(けんきやう)の作曲になる。雅楽の楽箏のパターンを使ったり、その様式を模した〈楽〉を歌と合わせたりしている。

〔徳丸吉彦〕

こごう 【御光】 太陽や月を背にして山頂や峰などに立つと、前面の霧や雲などに自分の影が映り、霧粒や雲粒による光の回折のために、自分の影を中心として色づいた光輪が現われる。これが御光とよばれる現象であり、ブロッケンともいう。霧粒や雲粒の大きさによって、光輪の大きさが異なる。また自分の影を中心にして美しい光輪ができるので、その神秘さが登山者の宗教心をかきたてる。

こごう 【呉興】 ウーシン 中国、浙江(せっちう)省北部の都市。太湖南岸に臨む。呉興県の県政府所在地で、旧名湖州。商業・養蠶業が盛んで、生糸・米・絹織物・筆・紙・扇子・油などを産する。特に筆は湖筆の名で知られ、良質なことで有名である。明(みん)・清(しん)代には湖州府であったが、1912年に呉興県となり、中華人民共和国時代、一時湖州市となった。その後再び呉興となった。

こごうごみん 【五公五民】 江戸時代、主として後期の年貢(ねんぐ)徴収率。公は領主、



護国寺 本堂

民は農民で、収穫米のうち5割を年貢米として貢納させ、5割を農民の保有米として残すことである。年貢徴収率は幕府・諸藩とも必ずしも一定でなかったが、ふつう四公六民であった。8代將軍徳川吉宗(よしむね)は、享保(きやうほう)年間(1716〜1735)の幕政改革で、幕府財政の窮迫を救うため五公五民とした。この増租政策は新田開発の奨励や定免法の採用など一連の政策と見合せて行なわれたが、農民の負担を過重にしたことに変わりはなく、他の原因も加わって、百姓一揆(いっき)の件数が増加した。しかし幕府・諸藩は封建財政の矛盾が深刻化するのに応じ、領主のとりうる最も基本的な対策として年貢増徴を勧めたので、農民の反封建闘争も激化した。〔高崎徳次〕

こごうごんでんのう 【後光厳天皇】 (1338〜1374) 名は弥仁(いやひと)。北朝第4代の天皇。光厳天皇の皇子で、母は三条秀子(ひでこ)。1352年(正平7・文和1)南朝と足利尊氏(あしかがたかうじ)との間の和議が破れたので尊氏方に擁立され、和議中に一時廃絶していた北朝を再興して即位した。その後、南朝軍の京都奪還が行なわれるたびに、諸方に遷幸した。1371年(建徳2・応安4)皇子の後円融天皇に譲位。学問・和歌に造詣(そうけい)が深かった。陵墓は京都市伏見区深草坊町の深草北陵。〔高崎徳次〕

こごうしよはじめ 【御講書始め】 毎年1月皇居において行なわれる宮中行事の一つで、天皇・皇后が学者の進講を聞く儀。明治天皇が文教の大本を尊重し、年頭の行事として創始した。1951年(昭和26)までは和書・漢書・洋書についての進講が行なわれていたが、現在では皇太子以下の皇族・文部大臣・日本学士院会員・日本学術会議会員らも陪聴し、人文科学・社会科学・自然科学の3分野における学問権威者によって講義が行なわれている。〔小林玄助〕

こごうみょうてんのう 【後光明天皇】 (1633〜1654) 在位1643〜1654年。名は紹仁(つぐひと)。後水尾天皇の第3皇子。母は壬生院(みぶいん)藤原光子。儒学を好み、侍講に進講させた。典礼格式を重んじ、衣服の制の復古を主張した。詩歌集《鳳啼集(ほうていしゅう)》がある。陵墓は京都市の月輪(つきわ)陵。

こごえ 【凍え】 体温が奪われて起こる

全身的障害。このために死亡するのが凍死である。体温の低下によって体の機能が全般的に衰えるが、特に神経系統の機能低下と血液の酸素供給能力の減少が著しい。ヒトでは直腸内温度が24℃以下になると回復しにくいといわれ、気温が0℃以上でも凍死することがある。局所に起こるときは凍傷といい、外科的に火傷の場合と同様その重症度に応じて第1度凍傷(紅斑(こうはん)性)、第2度凍傷(水泡(すいほう)性)、第3度凍傷(壊死(えい)性)と分類している。〔平野修助〕

こごくきょう 【護国卿】 1653〜1659年、イギリスのピューリタン革命の終結後に現れた、最高権力をもつ統治者の称号。議会の急進的改革に不安を感じた所有者階級は議会を解散させ、統治章典を定めて、O.クロムウェルを護国卿に任命した。彼は革命政権の保守化を進め、軍事独裁制を敷いた。彼の死後、子のリチャードが就任したが、政治的能力がなかったため、1659年軍幹部により廃位され、やがて王政復古を迎えた。〔松下京子〕

こごくじ 【護国寺】 東京都文京区大塚坂下町にある新義真言宗豊山(ほうざん)派の大本山。1681年(天和1)5代將軍徳川綱吉(つなよし)が、母桂昌院(けいしょういん)の請で僧亮賢(りやうけん)を招き、高田薬園の地に建立(けんりゅう)させたのに始まる。1697年(元禄10)観音堂を建立。1717年(享保2)神田の護持院が焼失してこれを護国寺に合併、本坊が護持院、観音堂が護国寺とされたが、明治初年になって護持院の号は廃され、護国寺に統一された。〔藤本昌子〕

こごくじんじゃ 【護国神社】 国家のために生命をささげた人々の霊を祭った神社。はじめ招魂社と称した。1868年(明治1)、京都の東山に祠宇(しう)を設けて、嘉永(かえい)・安政(1848〜1859)以来明治維新前後にかけたの事変や戦役で殉難した人々の霊を祭ったのが起こりで、のちに東京招魂社(→靖国(やすくに)神社)などができた。護国神社の名称は1939年(昭和14)の制によるもので、1府県に1社を原則とし、その府県の英霊を合祀(ごうじ)する。別に、小さな崇敬区域で祭った護国神社もある。〔小野和輝〕

こごくどうめい 【五国同盟】 →四国同盟

こごしま 【興居島】 愛媛県松山市に属し、同市高浜港の前面に高浜瀬戸を隔てて南北に延びる山がちの島で、最高点は南端の小富士(282m)。面積9.3km²、人口約6,000。門田・由良(ゆら)・泊・船越(ふねこし)・本浦・鷲ヶ巣(わしが)・北浦などの集落があり、ウンシュウミカン・イロカン・ビワ・モモなどの栽培を主とし、水田もある。漁業も行ない、島外に船員を多く出している。由良・泊から定期船で、高浜港まで15分で達し、松山への通勤者も多い。小瀬戸を隔てて西方に属島の釣(つる)島があり、果樹を栽培している。興居島の名は、山が凝り固まった

ようすに由来するといわれ、《万葉集》の〈島山のよろしき国と、こごしき伊予(いよ)の高嶺(たかね)の、いさには岡(おか)にたたして〉(山部赤人(やまべのあかひと))は、石鎚(いしづち)山をさすという説と、小富士をさすという説がある。〔浅井得一〕

こごしゅうい 【古語拾遺】 平安前期の歴史書。斎部(いんべ)広成が807年(大同2)に撰述(せんじゅつ)した。上古以来中臣(なかとみ)氏とともに神事・祭祀(さいし)をつかさどってきた斎部氏が、中臣氏の後身藤原氏の興隆につれ、自家の衰微してきた現状を不満とし、自家の古伝承に基づき、その地位回復を意図して筆録、平城天皇に奏上した。多少の誇張もあるが、記紀に遺漏した記事もあり、古代史研究に貴重な文献とされる。

こごじゅうろつく 【五胡十六国】 中国の西晋(せいしん)の末から南朝の宋(そう)に至る130余年間(304~439)に侵入した5異民族と、これら異民族および漢民族によって華北に建てられた16の国をいい、この大混乱期を五胡十六国時代という。五胡とは匈奴(きょうど)・羯(けつ)・鮮卑(せんび)・氐(ひ)・羌(きやう)の5種族をいい、十六国とは匈奴族の建てた前趙(ぜんちょう) (はじめ漢という、304~329)、北涼(397~439)、夏(407~431)、羯族の建てた後趙(319~352)、鮮卑族の建てた前燕(ぜんえん) (337~370)、後燕(384~409)、南燕(398~410)、西秦(せいしん) (385~431)、南涼(397~414)、氐族の建てた成(のちに漢と改める、303~347)、前秦(351~394)、後涼(386~403)、羌族の建てた後秦(384~417)と、これに漢民族の建てた前涼(317~376)、西涼(400~421)、北燕(409~436)を加えた合計16の国をさす。4世紀の初めに、西晋王朝(265~316)が王族どうしの内乱によって大混乱に陥ると、すでに華北内地に移住していた遊牧民族が上記の各種族ごとに独立をはじめ、さらに次々に北方民族の南下をひき起こして、それぞれの国が併合・分裂・興亡をくり返し、最後に439年に鮮卑族の北魏(ほくゑ)王朝(386~534)によって華北はようやく統一された。〔川勝義雄〕

ココシュカ [Oskar Kokoschka] (1886~1980) オーストリアの画家・版画家。表現主義の指導者のひとり。1904年から1907年にかけてウィーン美術工芸学校に学び、1910年ベルリンの嵐(あらし)派に参加した。第1次世界大戦後一時はドレスデン美術学校の教授をつとめた。その絵は対象の精神化において他にぬきんで、輝く色彩の多様な変化、大胆なタッチ、折線のように激動する描線が劇的な効果を与える。肖像・風景画のほか幻想的な内容の絵もあるが、スペイン内乱以後は政治的性格をおび、ファシズムへの弾劾(だんかく)を示した。思想的な内容の木版画シリーズもある。〔岸野悦子〕

こごしよかいぎ 【小御所会議】 1867年(慶応3)12月9日、王政復古の号令の出した夜、徳川氏の処分を決するために京都御

ココシュカ
《ザルツブルグ》
ミュンヘン国立新美術館



所内の小御所で開かれた御前会議。同年10月薩摩(さつま)・長州2藩への討幕の密勅と同時に、徳川慶喜(よしのぶ)がみずから政權を返上したため、武力討幕の名目を失った2藩は、徳川氏を刺激して武力衝突の触発を意図して開催された。会議は論議沸騰し、この日の政変を薩長の陰謀とする土佐前藩主山内豊信(とよしげ)と、あくまで徳川氏の強硬処分を決議しようとする岩倉具視(ともみ)とが対立したが、慶喜に辞官納地を命ずることに決定した。このため幕府側はこの処分に憤激、こうして2藩のおもわくどおり戊辰(へいしん)戦争を激発した。〔千野境子〕

ココス(諸島) [Cocos] インド洋東部にあるオーストラリア領の群島。キーリング諸島・ココス・キーリング諸島ともよばれる。約27の小サンゴ礁島からなり、1609年W.キーリングによって発見された。総面積13km²、人口675(1965)。1826年からイギリス人・マライ人らによって開拓されはじめたが、1955年以来オーストラリア領となった。コブラ採取を主産業としている。

こごた 【小牛田(町)】 宮城県遠田郡にある町で、人口20,000。1954年(昭和29)不動堂町・北浦村・中津(なかづ)村と志田郡敷玉村の一部を合併。小牛田駅は東北本線と陸羽東線および石巻(いしのまき)線の交差点である。中心集落は小牛田駅から2kmほど北にあり、江戸時代には宿駅として、また米の集散地として発達し、米は北上川の支流の江合川を利用して古川・石巻などへ輸送された。米蔵の設けられたところは、いまも御蔵場の地名でよばれている。付近の農村地域の中心をなし、土管・かわら・れんがの生産も行なわれている。

こごとうべえ 【小言幸兵衛】 落語の題名。大阪では《借家借り》という。小言好きの家主幸兵衛が、家を借りに来た男にいちいち文句を言って返してしまふ。最初の男は礼儀を知らないと言って追い返す。2番めに来た仕立て屋は礼儀正しい男で、幸兵衛も感心する。ところが、この男に20歳になる美男のひとりむすこがいて聞いて、同じ店子(たなこ)の古着屋のひとり娘との関係を心配しだし、ひとりむすこにひとり娘で

は双方とも跡取りで家を出せないから結婚させられず、それがもとで心中になるといふので、心中の一場面を芝居口調で演じたりして、結局追い返してしまう。このあとに乱暴な口調の男が来てむりに家を借りてしまうが、商売を聞くと鉄砲づくり。〈どうりでポンポンいう〉がサゲ。ほかに怪談仕立ての搦(つ)き米屋を登場させる場合もある。〔長尾一雄〕

ココナツ ⇨ココヤシ

このえ 【九重】 仙台(せんたい)市の銘菓で掛け物菓子の一。もちをアワ粒大に刻み、いりながらユズを入れた糖蜜(とうみつ)をまぶしたもの。熱湯を注いで飲む。ユズのほか、ブドウ・抹茶(matcha)を入れたものもある。もと福島県耶麻(やま)郡塩川町の郷土菓子。

こごまつてんのう 【後小松天皇】 (1377~1433) 名は幹仁(もとひと)。北朝の後円融天皇の皇子。母は通陽門院殿子。1382年(弘和2・永徳2)父帝より皇位を譲られて即位した。1392年(元中9・明德3)南朝の後亀山(かめやま)天皇から神器を継承し、ここに南朝を合わせて南北朝合体が実現した。1412年(応永19)譲位後は院政を行なった。晩年は仏門にはいり、法名は素行智(そぎょうち)。和歌を好み、御製は《新統古今和歌集》に収められている。陵墓は京都市伏見区深草坊町の深草北陵。〔高崎徳次〕

ココム [COCOM] Co-ordinating Committee(for Export Control) 対共産圏輸出調整(統制)委員会。1949年11月、アメリカの提唱により、北大西洋条約機構加盟国12か国が、対共産諸国軍需物資禁輸に協力するために設立、1950年1月から活動を開始した。日本は1952年に加盟。本部がパリにあるため、パリ委員会ともよばれ、輸出統制品目リスト(ココム・リストないしパリ・リスト)を作成し、軍事技術あるいはそれに関連する技術・製品を共産圏に輸出することを防いでいる。当初統制品目は400近くあったが、1957年以降大幅に統制が緩和され、毎年加盟国間の協議によって修正されている。1949年に設置された対中共輸出統制委員会(チンコム [CHINCOM], China Committee)は、現在ココムに併合さ

れ一つになっている。最近の東西貿易の伸
展に伴い、ココム・リストの緩和を主張する
諸国と統制を強めようとするアメリカとの
対立が生じ、また、アメリカはココム申し
合わせ違反に対する制裁措置として、パト
ル法により援助停止などを定めているが、
その効力は現在は消滅しつつある。

〔深海博明〕

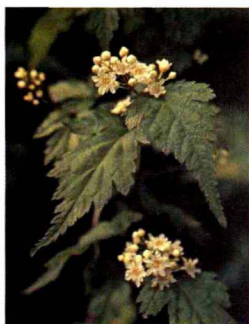
ここめうつぎ 【小米空木】 双子葉植
物・バラ科。日本・朝鮮の山地に自生する
落葉低木。高さ2mほどになり、多く分枝
し、枝は細く折れやすい。葉は互生し、卵
形、膜質で切れ込みがあり、両面に柔らか
い毛がある。5～6月ごろ短い総状花序を
頂生または腋生（えきせい）して、5mmほどの白
花をつける。果実は球形で宿存がくをもつ。

ここめぐさ 【小米草】 双子葉植物・ゴ
マノハダサ科。イブキゴメグサともいう。
伊吹（いぶき）山の山頂近くの草原にはえる一年
草。茎は直立し、高さ10～20cm、よく枝分
かれし、白い細毛がある。葉は多数つき、
卵形で鋸歯（きょし）がある。夏、葉のつけ根に
小さな白色の唇形花（しんけいか）をつける。

ここめばな 【小米花】 双子葉植物・バ
ラ科の落葉低木。シジミバナの別名。→シ
ジミバナ

ここやし 【古々椰子】 単子葉植物・ヤ
シ科の常緑高木。東洋の熱帯原産といわれ、
広く熱帯地方に分布し栽培される。幹は
20～30m、直径30cmくらいになり、分枝せ
ず、基部は膨大する。葉は羽状複葉で長さ
4～5m、茎の頂端から20～30枚が叢生（そ
うせい）する。葉腋（ようえき）から穂状に1～2m
の花序が出、先の方に小さい雄花を、基部
に大形球形の雌花をつける。果実は開花後
1年で成熟し、先端に3稜（りょう）があり長径
30cm内外の楕円（だえん）形でかっ色。中果皮は
あらい繊維質（ココナツファイバー）で、
その内方の内果皮（核）はかたく球形。中に
胚乳（はいにゅう）と胚がある。胚乳は多量の脂肪
を含み、乾燥したものをコブラ^{*}といい、こ
れをフレック状にしたものが菓子などに用
いられるココナツである。コブラからし
ばったコブラ油は、マーガリン・せっけん・
ろうそくなどの原料となる。しばらくは
飼料とする。果実の未熟のころの花序は切
ると甘味のある液が出て、これから糖を取
り、また発酵させてやし酒をつくる。若い
果実の胚乳液は甘味と香気があって飲料と
なる。中果皮の繊維はブラシ・敷き物・ロー
プなどに使われ水に強い。核の殻（から）は細
工物にする。葉は屋根をふいたり、かご・
敷き物にする。幹は建築材料や橋材とする。
経済的には北緯20°から南緯20°の海拔300m
以下の所が最適地で、成熟した果実を半ば
地中に埋めておくと、数か月で発芽する。
核には三つの発芽孔がある。〔横井朝子〕

ゴーゴリ [Nikolai Vasil'evich Go-
gol'] (1809～1852) ロシアの小説家・劇
作家。ウクライナのコサックの家に生まれ、



コゴメウツギ



ココヤシ



ゴーゴリ

ペテルブルグに出て俳優を志したが失敗、
叙事詩の発表も不評で一時絶望した。しか
し、散文で再出発し、短編集《ディカー
ナ近郷夜話》で文名を確立、プーシキン^{*}
の知遇を得た。その後、ウクライナ物といわ
れる小説集《ミルゴロド》《昔気質の地主夫
妻》《タラス・ブーリバ》《イワン・イワーヌイ
チとイワン・ニキーフ・ロビチが喧嘩（けんか）
をした話》などを含む）とペテルブルグ物の
小説集《アラベスク》《ネフスキ大通り》
《肖像画》などを含む）や《鼻》《外套（がいとう）》
を発表。それらは、ロシアにおける批判的
リアリズムを確立するものとなり、ドスト
エフスキー^{*}らに影響を与えた。その風刺
精神は戯曲《検察官》において専制政治への
批判ともなり、大反響をよんだが、同時に
批判・攻撃も加えられ、ゴーゴリはイタリ
アにのがれ、以後ときどき帰国しながら12
年間ローマで暮らした。その間に苦心のす
え《死せる魂》第1部を完成したが、神経障
害に悩み、不幸な最期を遂げた。

〔北垣信行〕

こころ 【心】 一般には意識・精神とほ

ぼ同じ意味で用いられるが、哲学では広義
の心は〈精神〉と狭義の〈心〉に区別される。
精神は心の働きを統制する力として身体に
対する自主性を強調するとき用いられ、
心は精神の作用が結果したものとして、身
体の影響をこうむるものをさす。具体的
には、たとえば悟性・意志などはむしろ精神
に、情念・欲望などはむしろ心に分類され
る。心理学においても、哲学とはほぼ同様の
使い分けがみられる。人の心の中にある観
念あるいは印象は〈意識現象〉の内容である
が、この内容を含む現象を意識として成立
させる作用は〈精神機能〉とよばれる。前者
を対象として意識心理学、後者を対象とし
て作用心理学あるいは機能心理学に分けら
れる。なお、実在的に〈心〉と〈身体〉がは
っきり相違する実体であるかどうかは、哲学
史上〈心身関係〉の問題として有名である。

〔石井忠厚〕

こころ 【こゝろ】 夏目漱石（そうせき）の後
期を代表する長編小説で、1914年（大正3）『朝
日新聞』に連載された。〈先生と私〉〈両親と
私〉〈先生の遺言〉の3部よりなり、前2者は
〈先生の遺言〉の序曲をなしている。〈先生〉
は、幼少以来の体験から自己以外の人間に
絶望していたが、自分が恋に陥ったとき、卑
劣にも友人を裏切ってまで我執を貫いてしま
う。友人は自殺し、〈先生〉は自己の我執
の深さを見つめて、ついに自分も自殺する
ことで〈我〉を否定するところに行きつく。
漱石はここで自我の拡充は結局他の自我
を傷つけ、自己をも傷つけるとし、近代
人の特質である個人主義思想の限界を提
示した。明治天皇に殉じた乃木希典（のきまね
ずけ）の死を機に書かれ、明治知識人の倫理の
あり方をも示した。〔西垣 勤〕

こころがわり 【心変わり】 ビュートル^{*}
の小説。1957年の作。パリ・ローマ間の列
車内における20数時間の主人公の意識の推
移をたどったもので、主人公は二人称でよ
ばれ、〈ヌーヴォー・ロマン（新しい小説）〉の
実験的手法が試みられている。

こころづけ 【心付】 文芸用語。連歌（れ
んが）・俳諧（はいかい）における付合（つけあい）の一。
《連理秘抄》に〈言葉・寄合を捨てて心ばかり
にて付くべし〉とあるように、特定の連想関
係のあることばによったり、余情の共通性
においてつけるのではなく、もっぱら前句
との意味上の完結をねらってつける手法で
ある。後世、蕉門（しょうもん）などでは広く余情
による付けをもよんでいる場合がある。

こころのはな 【心の花】 短歌雑誌。18
98年（明治31）から現在に至る。佐佐木信綱
（のぶつな）を中心とする〈竹柏会（ちくはくかい）〉の機
関誌として創刊された。〈広く、深く己（おの）
がじしに〉という信綱の精神を受けて、温雅
な歌風を特徴とし、五島茂・五島美代子（み
よこ）・前川佐美雄・佐佐木治綱（はるつな）・佐佐
木由幾（ゆき）・川田順・木下利玄・九条武子
（たけこ）・小宮良太郎・児山（こやま）敬一・柳原

白蓮[＊](びゃくれん)ら多くの歌人が出た。

こころみのしょうきかん 【試みの使用期間】 正式に採用するまえに、適格性などを判断するため試験的に使用する期間をいう。企業によってさまざまであるが、その期間は、通常3～6か月である。試用期間中の労働者の待遇は、それぞれの企業の慣行や就業規則などで定められているが、その身分は不安定である。試みの使用期間中で使用期間が14日以下の者には、使用者は、労働基準法20条の解雇手続きによらずに解雇することができる。また、法律に基づき最低賃金が定められた場合に、使用者が、試みの使用期間中の者について、都道府県労働基準局長の許可を受けたときは、最低賃金法の適用からはずされている。以上のほかは、試みの使用期間中の者にも、労働法は適用される。〔木元美代子〕

ごこん 【五根】 仏教用語で、感覚を起こさせる五つの器官。眼根(がんこん)・耳根(にこん)・鼻根・舌根・身根の五で、それぞれ視覚・聴覚・嗅覚(きゅうかく)・味覚・触覚の器官。見る心の働きは眼根をよりどころとして色形のあるものをとらえ、聞く心の働きは耳根をよりどころとして音をとらえることで認識作用が成立する。この認識作用をひき起こし、対象を感覚する働きをさして五根というとき、肉体の目・耳など、すなわち五官をさすときがある。〔小沢憲珠〕

ここんちよもんじゅう 【古今著聞集】 鎌倉前期の説話集。橘成季(たちばなのなりすえ)の編。真名序・仮名序を備えて勅撰(ちよくせん)和歌集の形式にならない、人事・社会・自然にわたる700余の説話が、〈神祇(じんぎ)〉〈釈教〉などの30編目に分類され、収録の範囲を日本に限った各編の説話が、ほぼ年代順に配列されている。内容は王朝貴族の詩歌管弦に関する説話が中心で、懐古的な思想を強く表わしているが、当時の世相のうかがえる街談巷説(こうせつ)からの採録もある。

ここんていしんしょう 【古今亭志ん生】 落語家。江戸の落語家で5世が現存する。

①初世(1809～1856) 初世三遊亭(さんゆうてい)円生の門人。一時江戸を去って8年の放浪生活を送ったが、その後江戸に帰って新生と名のり、真生を経て初世志ん生となる。人情噺(にんじょうばなし)を得意とし、《お富与三郎》《文七元結(もつゐ)》などを演じた。

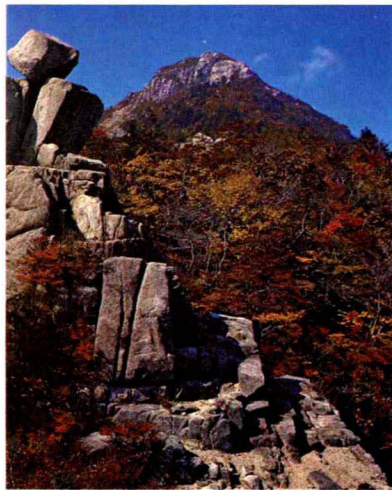
②2世(?～1889) 初世の門人。師の演目を継承し、高座のろうそくの明かりにくふうを凝らすなどの新趣向を研究。肥満体を利し、相撲(すもう)の話なども得意とした。

③5世(1890～1973) はじめ明治末の名人橘家円喬(たちばなやえんきょう)の門人。一時講談に転じたりしながら、16回の改名を経て5世志ん生となる。滑稽噺(こっけいばなし)・人情噺をとともに得意とした。満州慰問巡業中に終戦、自在な芸風により第2次世界大戦後の落語界第1人者の一人となった。

ここんとしょしゅうせい 【古今図書集



コザ 沖縄市内のバー街。基地産業に依存して発達した代表的な町。開拓時代のアメリカ西部の町のようなふんい気が漂う



御在所山 紅葉の美しい10月末の御在所山。山頂の左手にロープウェイが通じ、展望台がある

成】 中国、清(しん)代につくられた百科全書。すべて10,000巻。目録40巻、康熙帝(こうしてい)のとき編纂(へんさん)を始め、次の雍正帝(ようせい)のときに完成した。曆象・方輿(ほうよ)・明倫・博物・理学・経済の6編からなり、さらに項目別に32典、6,109部に分けて、各部分ごとに中国古今の図書を集成してある。

コザ 沖縄本島中部の旧市名。第2次世界大戦以前は越來(こまくり)村という一農村であったが、戦後は西隣の嘉手納(かてな)村からこの地にかけて東洋一といわれるアメリカの嘉手納空軍基地があるために急激に発展した。1956年(昭和31)市制、1974年(昭和49)4月、美里市と合併し沖縄市となる。コザというのは、もと胡屋(こや)という地名があったのを、アメリカ人が誤ってよんだことからきている。旧市域は北の読谷岳(よみだんだけ)を頂点として舌状に広がる。地域の経済はほとんど基地に依存している。

ごさ 【誤差】

① →近似値

②測定値から真の値を引いた差。誤差を真の値に対する比で表わしたものを誤差率といい、特に百分率で表わした値を誤差百分率といいパーセント(%)で表わす。誤差は、補正したり(温度変化による影響を受けるような場合)、注意したり(ストップウォッチのような場合)、あるいは測定器を校正したりして、誤差を小さくすることのできる系統的誤差と、同一条件で測定をくり返しても突き止めることのできない多数の原因で、測定値を十または一に片寄せてしまう偶然誤差とがある。〔土屋喜一〕

ござ 【蓆蓆】 イ(蘭)で編んだ敷き物の一種。古くは御蓆の字をあて、貴人に勧めるイで編んだ敷き物を称したが、現在では緯(よこ)にイを、経(たて)に綿糸を用いて織った敷き物をいい、板の間に敷いたり、畳の上敷きに用いる。花ござは織り出しあるいはプリントでさまざまな模様を出したもので、装飾用敷き物や夏用寝ござとしてシーツ代わりに用いられる。ござの主産地は岡山・広島・大分・福岡の諸県である。

こさい 【湖西市】 静岡県浜名湖西岸の市。人口37,000。1955年(昭和30)、鷺津(さしづ)町を中心に周辺の2町3村が合併、1972年(昭和47)市制施行。東海道本線・二俣(ふたまた)線が通じ、国道1号線に沿っている。豊橋(とよはし)と浜松の間にあるため、繊維関連工場・自動車関連の機械・電気工場の進出が著しい。またミカンの栽培も隆盛。産業三大別人口比は15:55:30。

ございしょやま 【御在所山】 鈴鹿(すずか)山脈の中部、三重・滋賀県境にあり、標高1,210m。山体はカコウ岩からなり、東面の三重側は急斜し、内藤壁などの岩壁があるが、西側は比較的緩斜面をなしている。東麓(とうろく)に湯ノ山温泉があり、ここから山頂近くまでロープウェイが通じている。頂上からは遠く琵琶湖(びわこ)・伊勢(いせ)湾がながめられ、展望台や山荘・バンガロー村などがある。鈴鹿国定公園の中心となっている。〔高野 繁〕

ございてんのう 【後西天皇】 (1637～1685) 在位1656～1663。名は良仁(よしひと)。後水尾天皇の第7皇子。母は逢春門院(おうしゅんもんいん)藤原隆子。1654年(承応3)踐祚(せんそ)。2年後即位。和歌に長じ歌集《水白集》がある。日記は《後西院御記》。陵墓は京都市の月輪(つきわ)の陵。

ございよしな 【古在由直】 (1864～1934) 農芸化学者。東京大学農学部的前身である東京農学校を卒業ののち、ベルギー・ドイツに留学。1900年(明治33)帰朝後、日本における農芸化学の草分けとして指導的立場にあった。1920年(大正9)から1928年(昭和3)まで東大総長。

コサイン ⇨三角関数

ゴサインタン(山) [Gosainthan] ゴサインタンはサンスクリット語の名称で、

チベットではシーシャパンマ、中国では高僧贊峰とよんでいる。ネパール-ヒマラヤの高峰で標高8,013m。チベットとネパールの国境に近く、エベレスト山とマナスル山の中間、ランタン山群にある。中国のチベット自治区に位置するため、政治的に微妙な問題もあって長く未踏の山であったが、1964年5月に許競に率いられた中国隊が初登頂に成功した。〔大石堪山〕

こさかいふぼく 【小酒井不木】(1890～1929) 生理学者・小説家。本名光次。愛知県の生まれ。東京大学医学部卒。犯罪研究や外国の推理小説の翻訳から創作に転じ、《恋愛曲線》などでは異常心理を、《疑問の黒枠(くわく)》などではなぞ解きを書き、推理小説普及に貢献した。

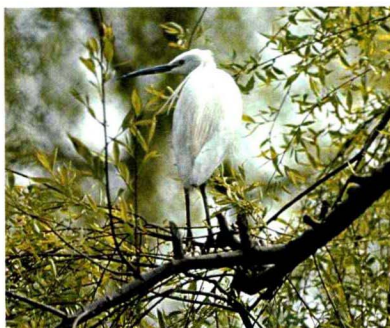
こさかこうざん 【小坂鉱山】 秋田県北東部、鹿角(かづの)郡小坂町にあり、銅・鉛・亜鉛などを産するわが国有数の金属鉱山。1861年(文久1)に発見され、南部藩の所有となったが、明治にはいり藤田組の経営になってから発展した。現在は同和鉱業が経営している。明治末期から大正時代までが最盛期で、黒鉱の露天掘りは全国的に有名であったが、その後衰微した。しかし1959年(昭和34)埋蔵量1,150万tの新鉱床が発見されてから活況を取りもどした。〔竹内淳彦〕

こさがてんのう 【後嵯峨天皇】(1220～1272) 在位1242～1246年。名は邦仁(くにひと)。土御門(つちみかど)天皇の第1皇子。母は源通子。四条天皇の死後、幕府の意で冊立(さくり)された。在位4年にして退き、その後深草・龜山(かめやま)両天皇の間、20余年間院政を行なった。皇子宗尊(むねたか)親王は初代親王将軍として鎌倉へ東下。天皇は長子後深草よりも次子龜山を愛し、後深草系(持明院統)を無視して龜山系(大覚寺統)に皇位を継承させようとしたため、両統迭立(りゅうたいてつり)が始まった。和歌をよくし《統古今和歌集》を撰(せん)させた。陵墓は京都市の嵯峨南陵。〔鹿野賀代子〕

こさぎ 【小鷺】 鳥類・サギ科。全身白色で、翼開長1m弱のシラサギの一種。九州・本州のマツ林・タケ林などで集団繁殖し、水田や湿地で甲殻(こうかく)類や魚類を捕えて食べた。冬季も本州中部以南に多数とどまり越冬している。→シラサギ

こさきょくせん 【誤差曲線】 ⇒正規分布

こさくけん 【小作権】 小作料(小作人が地主に支払う借地料)を支払って他人(地主)の農地を耕作する権利をいい、これには永小作権に基づくものと賃貸借に基づくものがある。しかし、永小作権に基づく小作権は、今日皆無といってよいほど存在せず、そのほとんどが賃貸借に基づくものである。小作関係は、1938年(昭和13)の農地調整法、第2次世界大戦後の農地改革、1952年の農地法等々を通じて小作人の保護が強化されてきた。農地法によると、農地は



コサギ 繁殖期には頭部の長い飾り羽が目立つ

引き渡しによって対抗要件を生ずること(農地法18条)、賃貸借の解約をなすには都道府県知事の許可を要すること(農地法20条)、小作料の最高額が農業委員会によって定められねばならないこと(農地法21条)、小作料は定額金納制にし、小作料以外にはいかなる名義のものであるにせよその授受を禁止すること(農地法22条・23条)等々の規定を設けて小作人の保護を図っている。しかし、賃貸借に基づく小作権の譲渡・転貸については地主の承諾を要する(民法612条)。

〔黒木三郎〕

こさくせいど 【小作制度】 他人の所有する農地または採草放牧地を借り受け、耕作または養畜を家族労働力で行なう営農形態をとる農民を小作農といい、小作農と地主の間の土地賃借を基礎とする社会的・経済的・法律的关系を一般に小作制度という。

【発生と展開】 日本では小作関係はすでに江戸中期以降に発生していた。徳川封建制下では百姓は領主に全剰余生産物の貢納を強制されていたが、事実上年貢高(ねんぐだか)はほぼ固定しており、農業生産力の上昇とともに農民に余剰の余地が発生し、農民的商品生産を発展させていった。この過程はまた、農民的剰余に吸着する商人・高利貸し層、名主・庄屋(しょうや)の村役人的上層百姓による農地の事実上の取得を推し進める結果となり、地主と小作農を発生させた。しかし、江戸時代は田畑永代売買禁止令により土地所有は強く制約され、小作関係も公然とは拡大しなかった。明治維新によって土地売買禁止は解除され、土地私有は法によって認められた。さらに地租金納化は、商品貨幣経済に適応する条件になかった多数の自給の生産農民に貨幣経済を強制し、西南戦争後のインフレ、松方財政によるデフレを経過する中で農民の窮乏化が進行し、農民の土地は商人・高利貸しの手急速に集中されていった。こうして1910年代までに全耕地の45%が小作地と化し、全農家の約70%が小作地を多少とも耕作するようになり、ここに寄生地主制の確立をみるようになった(→地主制)。

【小作関係】 明治維新とともに、領主制は

解体したにもかかわらず、寄生地主制のもとで、小作料は全収穫量のほぼ半量に達するほど高率であり、しかもおもに現物納であったため、それは封建的貢租に匹敵する性格をもっていた。土地所有の大小は村落社会における身分や地位に至るまで規定し、小作契約も慣習的に定められ、土地所有の絶対的優位のもとに、小作農の耕作権は物権として確立しないままに置かれていた。資本主義の発達に伴う商品経済の進展は、小作農の生活の窮乏化をいっそう推し進め、小作農の地主に対する生活をかけた小作料減額要求、小作条件の改善をめぐる小作争議を第1次世界大戦後に激化させていった。→次項

【変革】 第2次世界大戦後の農地改革によって170万5,000ヘクタールの小作地が解放され、寄生地主制は解体し、小作地は耕地面積の10%(約50万ヘクタール)に低下した。小作料は低率・金納化し、耕作権も確立した。1960年(昭和35)には小作地はさらに減少了、35万ヘクタール、全耕地の5%強となり、1965年現在、小作農家は10万戸で全農家の1.8%となり、また、経営耕地の50～90%が小作地である小自作農も15万7,000戸で全農家の2.8%となった。しかし、近年、兼業化の進行とともに、兼業農家の土地を請け負って専業農家が耕作するという形態の小作関係が拡大する傾向がみられるようになった。〔高山隆三〕

こさくそうぎ 【小作争議】 小作料・小作権その他小作条件をめぐる地主と小作人間に生ずる紛争。日本では1890年代(明治23～32)における地主制の確立のころから西日本を中心として多数の小作争議が起これ、小作人組合もつくられるようになった。これは、耕地整理を通じて小作料の引き上げが行なわれようとしたこと、あるいは1908年の〈米穀検査規則〉の施行にみられるように、米穀市場の拡大に伴う品質向上の要請を小作人の負担で果たそうとしたことをきっかけに、小作人の不満が爆発したものである。小作争議が全国的な規模で本格的に展開したのは第1次世界大戦後であった。戦後の不況を反映し、ロシア革命の衝撃を受けて急激に発展した労働運動・社会主義運動は、小作農の階級的自覚を促した。不況による農産物価格の暴落を契機に1921年(大正10)には争議件数は1920年の4倍強の1,680件となり、それに参加した小作人数は14万6,000人に上った。小作人組合も1921年には681であったものが、1922年には1,114に増加し、同年には日本農民組合の結成をみた。争議は小作料の引き下げ、耕作権の確立を中心としたもので、代表的な争議としては、岡山県藤田村・新潟県小崎村のものがあげられる。争議の高まりに対し、地主側と一体となった国家権力は、激しく小作農を弾圧し、また、地主の利益を擁護する〈小作調定法〉を1927年(昭和2)に施行する